

2 合同シンポジウム

第1回 合同シンポジウム

概要と目的	三大学の教職員、学生、地域医療人材養成拠点病院関係者、行政が本プロジェクトの意義を確認、相互に交流するとともに、広く地域に対し情報発信する
日 時	令和5年3月1日（水）13:00～15:30
場 所	高知大学医学部アメニティマルチスペース（Zoomによるハイブリッド開催）
主 催	高知大学医学部
後 援	高知県、一般社団法人高知県医師会、一般社団法人高知医療再生機構
参 加 者	136人（現地40人、オンライン96人）

次 第

- 13:00 開会挨拶 高知大学医学部長 降幡 睦夫
- 13:05 祝 辞 高知県知事 濱田 省司 様
(代読；医療政策課 課長補佐 岡本 幸 様)
- 13:10 特別講演 『医師である私たちのできること—東日本大震災の経験を通して—』
座長：高知大学医学部 災害・救急医療学講座 教授 西山 謹吾
講師：東北大学病院 総合地域医療教育支援部 助教 菅野 武 先生
- 14:30 取り組み事例報告（高知大学医学部先端医療学コース災害救急医療研究班）
『津波避難タワー滞在実習 IN 中土佐町』 田村 侑子（4年）
『医学部生に対する防災・減災の取り組みへの理解に向けて』 井上 希（5年）
『災害時における安全な患者搬送実施にむけたオンライン教育』 村山真理子（5年）
- 14:50 パネルディスカッション『黒潮医療人養成プロジェクトの推進に向けて』
司会：高知大学医学部 医学科長／総合診療部 教授 瀬尾 宏美
パネリスト：
高知大学医学部 家庭医療学講座 教授 阿波谷敏英
和歌山県立医科大学 地域医療支援センター 副センター長 蒸野 寿紀
三重大学医学部附属病院 総合診療部 教授 山本 憲彦
高知大学医学部医学科 5年 井上 希
高知大学医学部医学科 4年 上嶋 純平
助言者：東北大学病院 総合地域医療教育支援部 助教 菅野 武 先生
- 15:25 次回開催地挨拶 三重大学医学部長 堀 浩樹
閉会挨拶 高知大学医学部 医学科長／総合診療部 教授 瀬尾 宏美
- 15:30 閉 会

Ⅲ. 事業実施状況報告

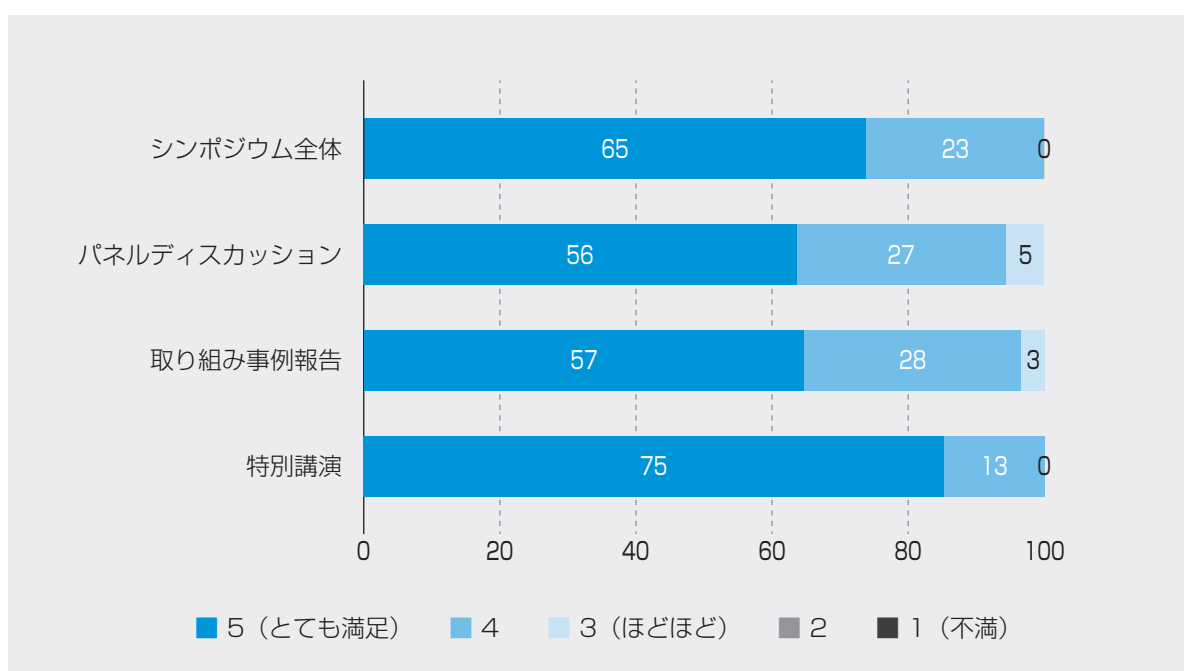
参考資料

参加者内訳

	計	高知	和歌山	三重	その他	その他内訳
医 学 生	47(20)	40(15)	1(1)	5(4)	1(0)	島根
大学関係者	48(15)	18(9)	5(2)	11(4)	14(0)	名古屋2、筑波2、岡山2、新潟、自治、 富山、岐阜、島根、長崎、メリーランド
高 校 生	14(0)	1(0)	12(0)	1(0)		
地域医療機関	17(0)	9(0)	5(0)	3(0)		
県 庁 職 員	7(4)	5(4)	1(0)	1(0)		
そ の 他	3(1)				3(1)	特別講師、厚労省医政局、不明
計	136(40)					

参加者アンケート

回答者 88 人（医学生 46、大学関係者 22、高校生 10、地域医療機関 7、県庁職員 3）



自由意見

医 学 生

- とても勉強になりました。
- これから医師として働くにあたって、様々なことを考えなければならないと自覚しました。
- とても興味深く、将来の理想の医師像について考えさせられました。
- 今後起こる南海トラフ巨大地震時の医療について考えるいい機会になりました。
- 菅野先生のご講演や様々なご意見を伺うことができ、将来の自分の医師になるための学びとなりました。
- 他大学の意見や大学間の違い、共通点について肌で感じる貴重な機会だったと思います。
- 各大学の学生の取り組みを知りたい。
- 高知大では家庭医療道場というものがあり、1年生の応募が特に多いと聞いています。全員がということは難しいと思いますが、入学したての熱いうちに地域への興味を持ってもらえる取り組みがあるといいかなと思いました。

- 私は三重県の防災について考えてきましたが、今回の会を通して、高知県や和歌山県も同じ問題に対処しようとしていると気付きました。
- 参加者がディスカッションできる機会があればより深く学べそうだと思います。
- 学生のどなたかの質問にもありましたが、私も地域医療実習でどのように踏み込んでいけばいいのか悩んでいます。私は1年生で、地域実習に行ったのですが、もっとお時間をいただきたいかったです。
- 大学で、津波に対する避難訓練に参加させていただいたことがあるのですが、あのような機会をもっといただきたいです。今回、高知大学の学生の方々がなされたように、実際に地域に赴いて、津波避難について考察したいです。このようなことは個人でも可能かもしれませんが、大学や地域全体で取り組むべき問題だと思います。医学部や他学部の先生方、地域の方々にご協力いただき、授業で取り組むことができれば嬉しいです。

大学教職員

- 午前中に現地の施設見学をさせていただきとても良かった。
- 開催に向けての関係者の皆様方のあつい熱意と御努力に感謝申し上げます。
- 音量の差が大きく頻回に調整を要しました。シンポジウムの時にシンポジストが映っていた方が良かったかと思いました。

高校生

- 災害医療を円滑に進めるために日頃から地域医療のニーズに注意を向けておくことが必要であると感じました。
- 患者を搬送するにも簡易担架の使い方を知っておく必要があるので、備えの重要性を改めて認識しました。
- 私は医学部への進学を目標にしているのですが、取組事例やパネルディスカッションで、実際に医学部の学生さんが行っていることを知り、医学部で学びたいという気持ちがより一層強まりました。
- 今日のお話を聞くまでは、地域で働くことに対して少し後ろ向きだったのですが、学生の方がいきいきとお話されている様子を見て、地域に対して興味を持つことができました。

地域医療機関

- 他のシンポジウムに参加しましたが、どのような人材を育てたいのかがよくわからない内容のものでしたが、今回は良かったです。
- 菅野先生のご講演は、言葉に力があり、とても考えさせられました。医学生がもっと聴いてくれたらよかったな、と思いました。

県庁職員

- 実際の現場での臨場感のある説明や、若い世代の医学生の感想や捉え方、色々な発表など、とても有意義でした。

Ⅲ. 事業実施状況報告

第1回 合同シンポジウム 当日の様子





高 知 新 聞

黒潮医療人養成プロジェクトの展望を議論する3大学の教授ら(南国市岡豊町小蓮の高知大医学部)



医療人材 協働して養成

南海トラフ地震と過疎高齢化など、共通の課題がある高知など3県の大学が協働して医療人材を養成するプロジェクトが始まった。1日に高知大学医学部(南国市)で初のシンポジウムが開かれ、東日本震災を経験した医師の講演などで今後の展望を探った。

高知大学と和歌山県立医科大学、三重大学で、昨年8月に「黒潮医療人養成プロジェクト」を設立。各県の地域拠点病院での相互実習や、オンライン学習コンテンツの共同開発などを進めて、地域ニーズを把握した医療人材を養成する。シンポにはオンラインを含め約150人が参加。高知県災害医療アドバイザーで東北大学病院助教の菅野武さん(43)が、震災時に勤務していた宮城県南三陸町の公立志津川病院での体験を講演した。

揺れから40分で津波が押し寄せ、4階まで波が迫る中、患者を急いで5階に搬送。死亡者の身元が分かるようにと、医療従事者が自分と患者の体に油性ペンで名前を書き始めたといい、「発生直後の対策は『生き延びる』の一点。まず自分の命を守る行動をしてほしい」と強調。

さらに、「どんな人が社会的弱者で、どんなニーズがあつてどの機関とつなぐといいのか。普段の地域医療でつぶさに見ているかどうかが災害時の支援につながる」と訴えた。その後、3大学の教授らがパネルディスカッションし、学生らが平素から地域と積極的に関わる仕組みをつくることを確認した。

(山崎彩加)

高知大など3県大学連携 初のシンポ

2023年(令和5年)3月3日

第1回 合同シンポジウム チラシ

地域から、日本の医療の未来を描く

黒潮医療人養成プロジェクト 第1回 合同シンポジウム

2023年3月1日(水) 13:00-15:30 **参加費 無料**

オンライン参加 **お申込はこちらから**

本シンポジウムはハイブリッド形式で開催しますが、COVID-19の感染拡大防止のため会場は関係者のみ、参加者はどなたもオンラインでの受付となります。参加ご希望の方は、右の事前登録用フォームからお申込みください。



プロジェクト
WEB サイト
kuroshio-pjt.com

プログラム

- 特別講演「医師である私たちのできること - 東日本大震災の経験を通して -」
講師：菅野 武 氏（東北大学病院 総合地域医療教育支援部 助教）
座長：高知大学医学部 災害・救急医療学講座 教授 西山 謙吾
- 取り組み事例報告 高知大学医学部 先端医療学コース 災害救急医療研究班 学生の発表
- パネルディスカッション 司会：高知大学医学部 医学科長／総合診療部 教授 瀬尾 宏美
パネリスト：高知大学医学部 家庭医療学講座 教授 阿波谷 敏英
和歌山県立医科大学 地域医療支援センター 副センター長 蒸野 寿紀
三重大学医学部附属病院 総合診療部 教授 山本 憲彦
高知大学医学部 学生

講師プロフィール



菅野 武 氏
東北大学病院
総合地域医療教育支援部 助教
(消化器内科兼務)

宮城県出身。2005年自治医科大学卒業。南三陸町の公立志津川病院で勤務していた2011年3月11日、東日本大震災で被災。その時の体験が世界に報道され、TIME誌「世界で最も影響力のある100人」に選出される。震災後、東北大学大学院で博士号取得、2017年よりカナダのマクマスター大学に留学。2019年10月より現職。

主催：高知大学医学部 後援：高知県、(一社)高知県医師会、(一社)高知医療再生機構

